

モーセの幕屋



ヘブル人への手紙 9:1~7

9:1 初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました。

9:2 幕屋が設けられ、その前部の所には、燭台と机と供えのパンがありました。聖所と呼ばれる所です。

9:3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれる幕屋が設けられ、

9:4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナのはいった金のつぼ、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板がありました。

9:5 また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光のケルビムがありました。しかしこれらについては、今いちいち述べることはできません。

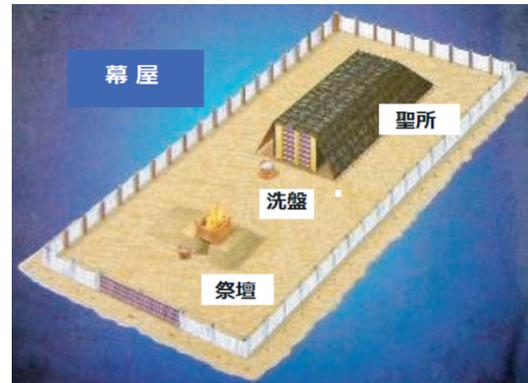
9:6 さて、これらの物が以上のように整えられた上で、前の幕屋には、祭司たちがいつもは行って礼拝を行なうのですが、

9:7 第二の幕屋には、大祭司だけが年に一度だけは入ります。そのとき、血を携えずにはいるようなことはありません。その血は、自分のために、また、民が知らずに犯した罪のためにささげるものです。

モーセの幕屋

天国とは、どのようなものであるのか。聖書には、ゴールである天の御国に入る方法が事細かに書いてある。それは図解的なモーセの幕屋である。

出エジプト記では、25~40章までの多くの章で幕屋について記されている。



ヘブル9:1 初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました。

これは古い契約のことで、旧約聖書に書かれている礼拝規定に基づいて建てられた幕屋での、聖所における礼拝規定のことである。旧約の幕屋は、私たちが救いの門から入り救いの道を歩み、永遠の救いである御国に入るための比喻である。

至聖所



契約の箱

聖所

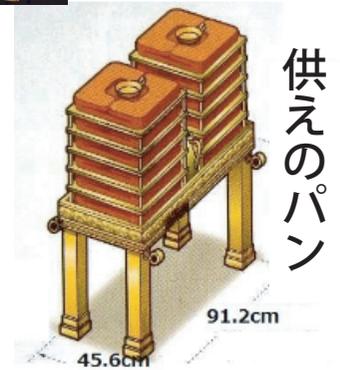


香壇



燭台

純金の燭台

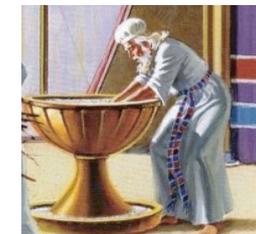


供えのパン

91.2cm

45.6cm

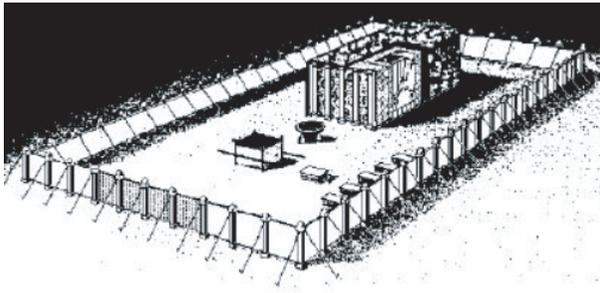
大庭



洗盤



祭壇



会見の天幕

会見の天幕には大祭司と祭司しか入れないが、神を「礼拝」し、神の臨在が現れる「幕屋」である。

天幕の中に入って左には ① 聖霊を表す金の「燭台」、右には ② 神の恵みに対する感謝、御言葉を表す「パン」が12枚、金の「机」に乗せられていて、天幕の中央ぐらゐに ③ とりなしの祈りを表す「香壇」が置かれている。

次に、「聖所」と「至聖所」とを隔てる「垂れ幕」の後ろに大祭司しか入れない ④ 御国を表す「至聖所」があり、⑤ 救いと栄光を表す「契約の箱」が置かれている。

「契約の箱」の中には、⑥ 石でできていて律法を表す「契約の二つの板」、⑦ 祭司職を表す「アロンの杖」、⑧ 天からの言葉を表す「マナの入った金のつぼ」が入っていて、⑨ 罪の贖（あがな）いを表す金の蓋がされて、その蓋の上には ⑩ 栄光を表すケルビムが翼を広げ乗っている。

1ペテロ2:9 あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。

永遠の大祭司 イエス・キリスト

旧約の幕屋は、私たちが救いの門から入り救いの道を歩み、永遠の救いである御国に入るための比喩であり、救いの奥義でもある。

しかし、今の新約の救いの時代では、キリストにより幕屋が完成していて、完全な幕屋にキリストを通して入り、聖所、至聖所を通り、まことの至聖所である天の御国に入ることになる。

イエス・キリストは永遠の大祭司として、ただ一度いけにえとしての血を流し、永遠の贖いを成し遂げ、それによって私たちが御国に入るための完全な幕屋が完成した。

私たちは、イエスをキリストと信じ祭司として立てられ、賛美と祈りと礼拝によってまことの幕屋に入り、聖所、至聖所に至り、ついに、まことの至聖所である天の御国に入ることをモーセの幕屋は現わしている。

1ペテロ2:5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

「初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました」とは、旧約聖書に書かれている礼拝規定に基づいて建てられた幕屋での、聖所における礼拝規定のことである。

幕屋とは、幅25メートル、奥行き50メートルの敷地が高さ2・5メートルの亜麻布で囲まれている所で、東側に入り口があります。幕屋に入ると、最初にいけにえを燃やす祭壇があり、次に祭司を清める洗盤があり、その奥に幅5メートル、奥行き15メートル、高さ5メートルの会見の天幕がある。

門は東に一箇所あるのみ。礼拝する者はだれでもこの門を通らなければならなかった。神の唯一の門である。

ヨハネ10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過してはいるなら、救われます。